

# 競 技 注 意 事 項

本大会は、2016年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

## 1 練習について

練習は、補助競技場および雨天練習場（使用方法について下記参照）を原則とする。投てき競技（円盤投・ハンマー投・やり投）の練習については、多目的広場を使用する。使用の際は係員の指示によって行う。

### 補助競技場の使用について

レーンの使用については以下の通りである。

- ・ 1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
- ・ 3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
- ・ ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路7～10レーンのみとする。
- ・ 多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、9・10レーンは男子110mHとする。
- ・ 第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。

### 雨天練習場の使用について

- ①雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ②雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ③シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ④ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。以外は、補助競技場で行うこと。
- ⑤ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ハードルは使用できない。

### 棒高跳について

競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。

## 2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。

## 3 ナンバーカードについて

- ①ナンバーカードは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- ②トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの右横や後方につけること。
- ③3000m以上の種目は別ナンバーカードを使用する。  
※別ナンバーカードは招集所にて配布する。

#### 4 選手招集について

- ①選手招集場所は第2ゲート付近とする。
- ②選手招集完了時刻は次のとおりとする

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	競技開始30分前	競技開始20分前
トラック種目（決勝種目）	競技開始25分前	競技開始15分前
フィールド種目	競技開始40分前	競技開始30分前
フィールド種目（棒高跳）	競技開始70分前	競技開始60分前

※棒高跳は、現地で招集を行う。

ただし、男女100mの招集完了時刻に注意すること。

男女100m		
1組～5組		競技開始20分前
6組～10組		競技開始5分前
11組～16組		競技開始10分後

- ③招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
- ④リレーのオーダー表は招集完了時刻の1時間前までに提出すること。
- ⑤2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出る。

#### 5 競技について

- ①競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ②その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ③トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。  
「不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- ④スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- ⑤短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- ⑥トラック競技において、同記録者がでた場合は、写真判定主任により写真を拡大し細部（電気時計1/1000）まで読み取り着差の判定をする。ただし、着順優先とし、各組上位者のみとする。
- ⑦レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑧リレー競技のマーカーの使用は個人の物を認めるが、1カ所のみとする。使用したマーカーはそのチームで処理する。
- ⑨予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- ⑩競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑪携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。コーチエリアからのコーチの持つ映像を見せることはできる。ただし、選手が機器等を手に持って画像を確認することはできない。

## 6 競技用具について

- ①競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、棒高跳び用ポール・やりは検定において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検定は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検定は競技開始60分前に第1ゲート倉庫付近で行う。
- ②練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいない。

## 7 競技場への入退場について（※陸上競技場改修中のため）

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技

第2ゲート：1500mおよび棒高跳・投てき競技

第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳

第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技および走幅跳・三段跳

## 8 走高跳・棒高跳のバーの上げ方（ただし、天候等により変更あり）

		練習	競技開始			以降	以降
走高跳	男子	130	135	140	145	180まで 5cm刻み	3cm刻み
	女子	115	120	125	130	160まで 5cm刻み	3cm刻み
棒高跳	男子	280	290	300	310	320	10cm刻み
	女子	170	180	190	200	210	10cm刻み

## 9 表彰

各種目3位までの入賞者に賞状を授与する。

## 10 計測標準記録の設定について

三段跳については次の計測ラインを設けることもある。また、この記録以下の記録については、2回目以降計測しない場合がある。

	三段跳
男子	11m00
女子	9m00

## 11 その他

- ①やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。
- ②応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。
- ③更衣室については、大会受付後方スタンド内通路を入れて右側にあるので利用してもよい。
- ④記録は競技場メインスタンド下正面玄関付近に掲示する。

11 愛媛選手権参加資格について

①平成28年度各地区陸上競技選手権大会において3位以内に入賞した者。

※ただし、その種目に限る。

②平成27年4月1日～平成28年6月23日(木)までに下記の標準記録に到達した者。

※公認競技場での追い風参考記録も別途考慮の対象とする。

### 愛媛選手権参加標準記録

男 子		女 子	
種 目	記 録	種 目	記 録
100m	11"50	100m	13"50
200m	23"50	200m	27"50
400m	52"50	400m	64"50
800m	2'04"00	800m	2'28"00
1500m	4'20"00	1500m	5'15"00
5000m	15'45"00	5000m (3000m)	18'45"00
10000m (5000m)	36'00"00 (16'00"00)		(10'45"00)
110mH	17"50	100mH	18"00
400mH	61"50	400mH	75"00
3000mSC	10'25"00	(400m)	(66"00)
5000mW	25'00"00	5000mW	30'00"00
4×100mR	45"00	4×100mR	54"00
4×400mR	3'35"00	4×400mR	基準を設けない
走高跳	1m70	走高跳	1m45
棒高跳	3m00	棒高跳	基準を設けない
走幅跳	6m20	走幅跳	4m80
三段跳	12m70	三段跳	基準を設けない
砲丸投(7.260kg)	9m50 (11m50)	砲丸投(4.000kg)	9m00
円盤投(2.000kg)	27m00 (28m00)	円盤投(1.000kg)	26m00
ハンマー投(7.260kg)	30m00 (35m00)	ハンマー投(4.000kg)	基準を設けない
やり投	48m00	やり投	30m00

※ 公認競技場での追い風参考記録も別途考慮の対象とする。(風速を必ず明記のこと)

男子10000m の ( )・・・5000mの記録

女子 5000m の ( )・・・3000mの記録

女子 400mHの ( )・・・400mの記録

男子 投てき種目 の ( )・・・ジュニア用の記録